

クラス番号	604	担当教員名	北村育子
テーマ	高齢者の日々の暮らしと人生を支えるということを多様な側面から考える		
著書・論文	研究課題：高齢者の支援に関すること 主に		
研究課題等	高齢者介護サービスの提供（認知症ケア、施設や在宅介護事業所における看取りの提供、など）		

ゼミナール概要

キーワード：

ゼミのテーマと学習目標：

支援の必要な高齢者に対してサービスを提供する事業者をとりまく環境は、介護保険制度創設当時に比べると大きく変化している。団塊の世代が高齢期を迎え、少子化が進行するなか、予防が一層重視され、施設サービス利用は重度者を中心とするものになってきている。癌になっても、認知症になっても、自宅で暮らし続け、小規模多機能事業所などのサービスを利用しながら、自宅で最期を迎えることができるようにするための条件が整えられつつある。このような環境の変化は、サービス現場の実践者により高度な知識と技術を要求する。これらの状況を踏まえ、高齢者が人生を全うし、家族がそれを支えることができるようにするための支援に関連するさまざまなテーマの中から、ゼミ生が各自の関心を明確化することを目標にする。

ゼミのすすめかた：

まず高齢期の心身の衰え、生活の変化、などに関する基礎知識を共有する。その上で、福祉や保健・医療のサービスをベースに高齢者支援を考えるのではなく、私たちの暮らしはどのように成り立っているのかということを変えて考え、その上で、高齢者の自己実現の援助、自立・自律について考える。

授業計画：

- ①衣食住を整えることについて学ぶ。ここでのキーワードは、個性と文化である。家政学や人類学にも目を向けるとともに、高齢者の就労、趣味や生きがいのための活動、社会貢献としてのボランティア活動、なども取り上げたい。
- ②高齢になることに伴う心身機能の変化、社会関係の変化、それらの受容、また一人暮らしや認知症を抱えて暮らすことに伴うニーズについて学ぶ。
- ③高齢者の暮らしを支える専門職には、ホームヘルパー、デイサービスの職員、ショートステイ施設の職員、これらの事業所の社会福祉士、地域包括支援センターの社会福祉士や保健師、ケアマネジャー、訪問看護師、かかりつけ医、などの他、入院した場合には入院先の医師や看護師、退院支援を行う社会福祉士、そして訪問サービスに携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士などがある。これらの専門職の役割と社会福祉士の仕事との違いや重なりについて学ぶ。また、組織としてのサービス提供事業者にも目を向ける。
- ④卒業に向けて、各自の関心を絞り込んでいく。
- ⑤卒論を計画し、執筆に取り組む。

担当教員からのメッセージ

ゼミでは、卒論執筆を念頭に、ゼミ生が自分の関心に気づくことができるようにすることに焦点をあてています。3年前期は、ゼミ室で各社の新聞を開きながら福祉や介護に限定せずに関心のある記事を選び、その記事に関連することを皆で話します。その際、担当者のフィールドでの活動やこれまでの経験についても紹介しています。みなさんの率直な感想や意見も、積極的に述べていただきたいと思います。卒業後、分野を問わず豊かな人生を歩むために、また福祉関連分野に進む場合には、良き支援者になるために、ゼミ生には、他のゼミ生との対話を通して、自分の考えをまとめ、語れるようになってほしいと思います。